‘媛小春’の安定生産対策

強樹勢のため着果がやや不安定であるが、高接ぎ４年目頃から結実し始め、樹が落ち着いてくると適正な結実管理により連年生産が可能となる。

台木

ヒリュウ台木を用いると、樹の生育が緩慢となり、果実品質が良くなる。

	樹容積 (m^3)	収量 (kg/m^3)	1果重 (g)	Brix	クエン酸 (g/100ml)
ヒリュウ台木	10.7	3.3	129	12.3	1.05
カラタチ台木	13.7	2.2	142	11.3	1.30

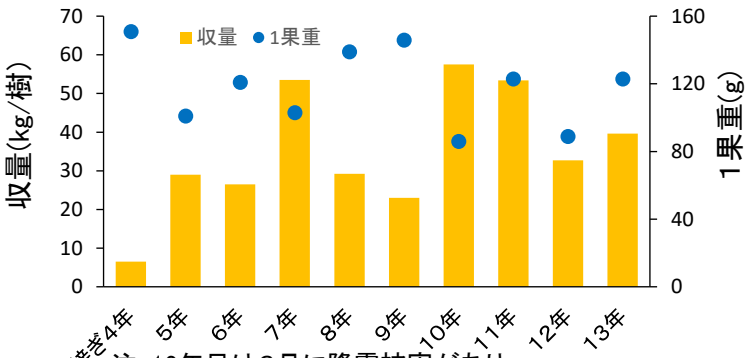
※8年生露地栽培　　平成28年1月6日収穫調査

カラタチ台

ヒリュウ台

収量

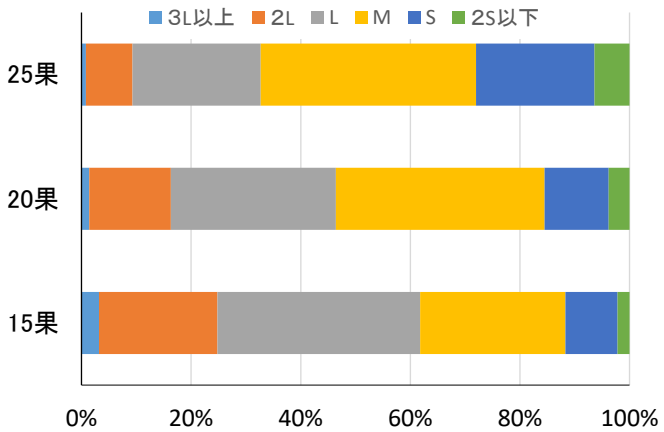
樹が落ち着いてくると、適正な結実管理により連年安定生産が可能になる。



注:12年目は6月に降雹被害があり。

結実管理

８月のあら摘果で全体の50%程度を摘果し、９月中旬に１m^3当たり15果程度に摘果することで大玉果生産できる。



- 果梗枝の太い上向き果・奇形果を中心に摘果する。
- 結果枝葉5枚以上の単生有葉果を主体に残す。
- 葉裏に着果が多く、仕上げ摘果は9月以降に行う。

果実の被害

鳥による被害や果頂部の奇形、果皮障害の発生に注意が必要。また、収穫が遅れると浮皮が発生しやすい。

時期別糖度の目安

９月30日	9.8
11月10日	10.3
12月20日	11.7

↓

1月30日に糖度12以上